

特濃！ 廃道あるき 第三一回



# 数坂峠の明治未成隧道大搜索線！

3つの峠に込められた願い。



by 平沼義之 (ヨツキれん)

位置

群馬県沼田市

探索日

2010年9月19日

# 数坂峠の明治未成隧道大搜索録！

## 前説：

### ◆探索の発端は、「利根村誌」の短い記述。

数年前まで群馬県の北東部に利根郡利根村という小さな村があった。そこは尾瀬より流れ出る片品川の流域で、吹割滝や老神温泉、蘭原湖などの観光地を持つ美しい水の村であったが、平成17年に隣の白沢村とともに沼田市に編入され、現在は沼田市利根町となっている。

この利根村が昭和48年に発行した利根村誌は1200頁近い大著で、交通に関してもかなり紙幅を割いている。その中に次の短い記述を見つけた。

おおよそ  
大楊区長記録には、明治二十六年・数坂改鑿 二十七年・八分竣功とある。  
人びとの寄附によって数坂にトンネルをあけて傾斜をなる(マモ)くしようと苦心したが、崩れ去って失敗し、切通しとして改良に努力するも險坂として車馬を阻止して来た。そこでこの改良より、別のルートを開こうと早くから努力していた。それが栗生峠である。

明治26年から27年にかけて数坂峠かつさかに隧道を掘る工事を行ったが、これが崩れて失敗し、結局栗生峠くりうを開鑿したというのである。

今まで沢山の市町村史をみてきたが、明治時代の隧道工事失敗&放棄というエピソードは、初めて見る気がする。何か痕跡が残っていたりするのだろうか。

# 数坂峠の明治末成隧道大搜索録！

数坂峠は、これまで廃道の在処として意識したこともない場所だったし、最初に利根村誌を読んだ理由は全く別だったのだが、がぜん気になりだした。

◇「東入り」を隔つ3つの峠。数坂、椎坂、栗生。

数坂や栗生といった峠名が出て来ているが、この地域に占めるこれらの峠の位置をまず理解しておこう。



古来、白沢村よりも東側の片品川流域一帯を「東入り」と呼んだ。この東入り地域を縦貫する最大の幹線は、尾瀬峠（三平峠）を越えて会津の檜枝岐へ通じる会津街道で、反対に会津側からは沼田街道と呼んだ。

この道は奥会津と関東平野を結ぶ最短ルートであり、近世から近代にかけて尾瀬越えの往来は盛んであった。

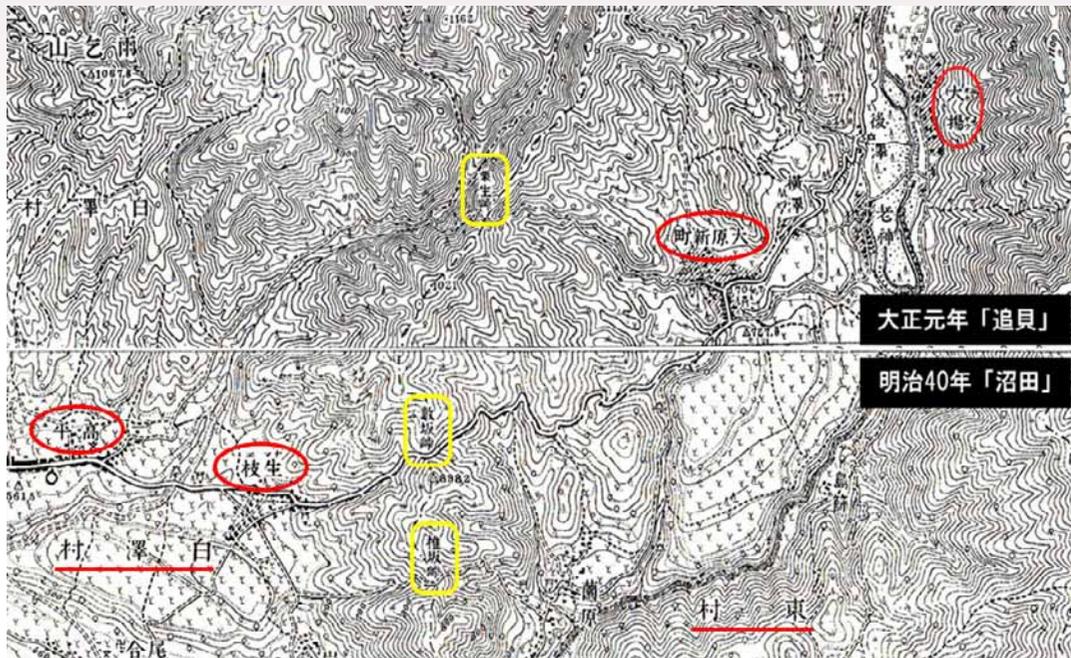
さて、この東入りの出口が尾瀬峠なら、入口にあたるのが数坂峠や栗生峠だった。上図に赤く示した範囲にこれらの峠が存在している。次の図はこの範囲の明治末の地形図である。

# 数坂峠の明治未成隧道大搜索録！

峠に白羽の矢が立つことになった。峠に崩れ去って失敗した。そこで、当時としては第2位の栗生峠だったことは、不思議ではない。しかし数坂峠の改良は結果的に「崩れ去って失敗」した。そこで、当時としては第2位の栗生



沼田市白沢町高平より撮影した風景。3つの峠がそれぞれ明瞭な鞍部として見えている。

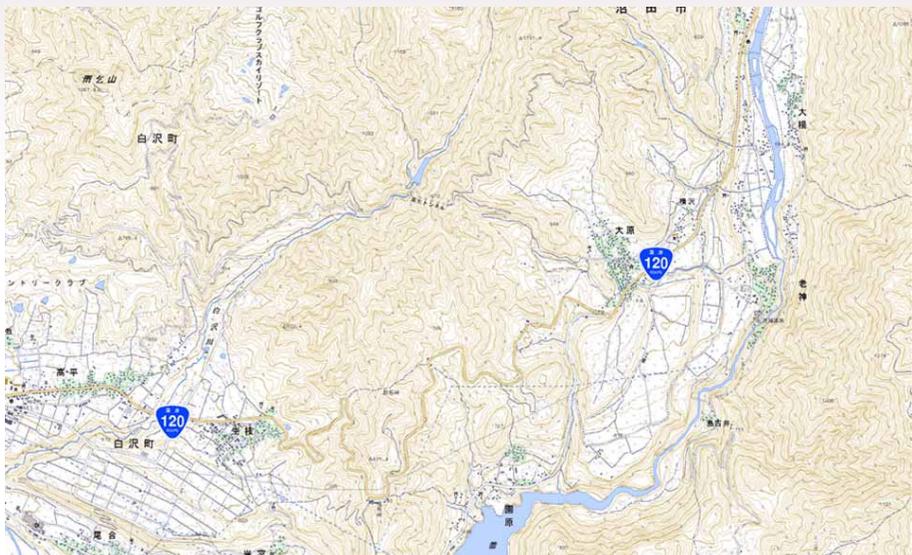


中央を南北に走る山稜に、北から栗生峠、数坂峠、椎坂峠が注記されている。この3つの峠は白沢村と利根村（昭和31年以前は東村）の境に並列する存在で、沼田を出て東入りへ入る道は、片品川沿いを大きく迂回する以外、このいずれかの峠を越えた。

明治末の地形図では、数坂峠を通る道が、県道を意味する太い二重線で描かれており、他の2つの峠に勝っている。ただし何れの道も「荷車を通ぜざる」ことを示す片破線であり、車は通れなかったことが分かる。

数坂峠は近世における会津街道の本道であり、明治期もその地位にあった。したがって東入りの人々が最初に車道へ改築しようとした道が数坂

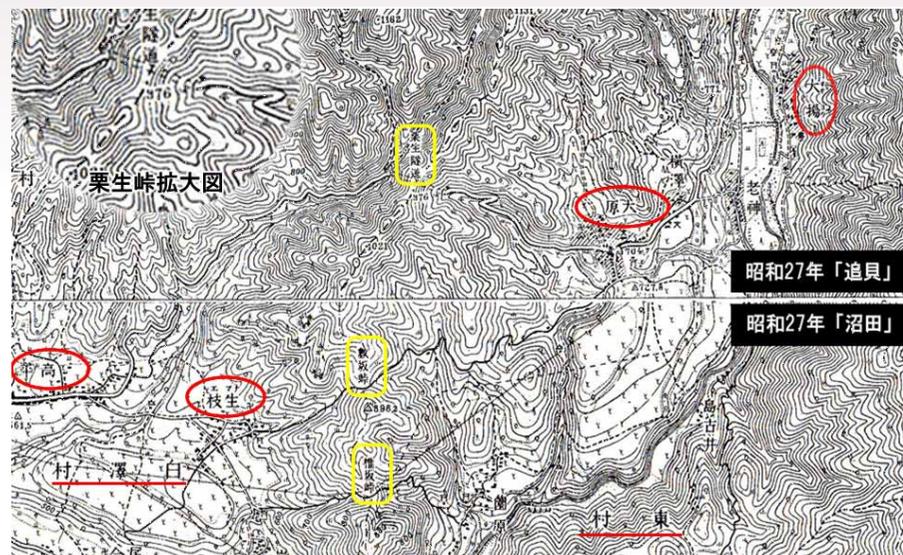
# 数坂峠の明治未成隧道大搜索録！



それまで県道であった会津街道のうち、沼田から片品村追貝までが国道120号に昇格したのは、昭和28年である。しばらくは栗生隧道が国道であった。しかし、栃木県境の金精峠が開通し、日光へと通じれば、1車線しかない栗生隧道は確実にパンクすると予想された。そのためトンネルを回避す

しかし、また現在の地形図では大きく状況が変わっている。

坂峠優位の時代は、大正9年に終わりを告げた。



今度は昭和27年版の地形図である。やはり3つの峠が注記されていることに違いはないが、栗生峠に長い隧道が出現し、そこを通る道が太く県道として描かれている。対して数坂峠はかなりしょぼく

た。この栗生隧道は、大正9年に群馬県最長の道路トンネルとして開通し、327mという長さは昭和32年に上越国境の三国トンネルが完成するまで抜かれなかった。数

る椎坂峠越えの新道工事が急がれ、金精道路開通前年の昭和39年に開通。国道は椎坂峠に移った。

三つ巴の峠バトル、最後に笑ったのは椎坂峠といえそうだが、新旧の地図をよく比較すると、現在の国道は確かに椎坂峠を越えてはいるものの、前後の峠道はむしろ数坂峠を大部分利用している。

それはともかく、今回の探索の目的はずばり、数坂峠で明治26〜27年にかけて工事され、結局「崩れ去って失敗」したという隧道や新道の痕跡を探ることである。

### ◆栗生隧道の現状

この写真は栗生トンネルの沼田側(西口)坑口である。利根村誌には【栗生隧道の写真】が掲載されており、椎坂峠の国道開通後は廃道状態だったとも書かれている。しかし平成に入ってから峠道ともに改修され、特に隧道は同じ位置にひとわり大きく掘り直されている。



銘板曰く、開通は平成9年である。残念ながら廃道を期待しての栗生峠探訪は、空振りにおわったのだった。



# 数坂峠の明治未成隧道大搜索録！

◇探索計画。道を探するのは、単純だが難しい。

今回の探索はいつもとは少し勝手が違う。大抵の探索では、現在なり過去の地図に記載されている道を辿ることが多い。廃道の在処自体は予め分かっているわけだ。しかし今回は「数坂峠」という大雑把な場所が与えられているだけで、実際にその中などの地点で隧道の工事が行われたとか、長さであるとかの情報はないかった。



現在の地形図にも、数坂峠を越える破線の道が描かれている。このちょうど峠の部分に隧道が掘られたのだろうか。

だが地形図を見る限り、峠の頂上に隧道を掘ったにしても、前後は相当急な道である。隧道の目的は車道の開通であったはずで、実際には隧道だけを造ったわけではなく、その前後にも車道を建設したのではないだろうか。

よって探索の方針としては、**隧道とともに未成に終わったであろう車道をまず発見することが、隧道発見への筋道になると考えた。**

## 数坂峠の明治未成隧道大搜索録！

数坂峠はそれほど山深い所ではないし、搜索すべき範囲も広すぎるわけではないが、かといって、史実通りならば120年近くも放置されている未成の廃隧道である。それを山中にピンポイントで見つけることは相当に困難なはずである。そもそも隧道が目に見えて分かる形で残っている保証は、何もないのであるが…。

方針が決まったところで、この話をトリ氏に漏らしたところ、とても行きたそうな顔をしたので、一緒に行くことにした。とうかこれは余談だが、正直私は決行前日の夜まで、行くかどうかを悩んでいた。なぜならば、村誌の記述だけを頼りに120年も昔の隧道工事跡を搜索するなど、あまりに覚束ないことに思われたからだ。他にも行きたい場所は色々あったし、敢えて夏の暑い最中に藪が深そうな低山の散策をするのは、気乗りしなかった。しかしトリ氏が「うだうだすんじゃねえ」と強く推すので、結局行くことにしたのだった。その結果がこれだよ（笑）。

### ◇参考資料

- ・ 利根村誌
- ・ 白沢村誌
- ・ 群馬県歴史の道調査報告書・沼田街道

# 数坂峠の明治未成隧道大搜索録！

トリさんの運転する車は数坂峠を目指す。明け方の関越自動車道沼田ICを出て、国道120号を東進。道ははじめから片品川の高い段丘上にあり、ときおり集落を挟みつつ畑やリンゴの果樹園が繰り返される長閑な風景が続く。今日は休日だが、「日本ロマンチック街道」と銘打たれた観光国道もまだ静かだ。

■沼田市白沢町生枝 2010/9/19 6:17 【**現在地**】



沼田ICから約8kmで、沼田側の最後の集落である生枝なまえに着いた。すでに3つの峠のうち、最初に分岐する栗生峠の入口は過ぎていく。

この生枝は数坂峠と椎坂峠の西口で、2つの峠の鞍部はもう間近に見える。標高は数坂が約840mで、椎坂が793m。

約50m数坂峠の方が高い。

道はここで二手に分かれている。正面が国道で、右は古道であり集落道である。本来はこれを入ったところから探索を開始

## 数坂峠の明治未成隧道大搜索録！

しても良かったし、実際に後で探索しているが、これと言った成果はないので省略したい。

なお、国道はこの段階では数坂峠へ向かっていくように見えるが、途中で山腹を右にトラバースし、最終的には椎坂峠の頂上を取るようになる。そこには赤い大きな三角屋根のドライブインが建ち、遠くからも明瞭なシルエットを見せていた。

椎坂峠はこれまで何度も通ったことがあるが、数坂峠の鞍部はあまり目立たぬこともあり、意識したことがなかった。

明治の隧道が、この山のどこかに眠っているのか。

分岐地点を後に、国道をそのまま車で進む。国道は集落をほとんど通らず、その西から北の斜面を回り込みながら高度を上げる。そして集落を離れるところで、トンネル工事をしているのが見えた。高い柵に囲われた工事現場で、走る車から写真を撮ることは出来なかったが、真新しい巨大な坑門の上部がはつきり見えた。

実はいま椎坂峠では、峠を貫く1.7kmのトンネルを含む「椎坂バイパス」の建設が進められている。【群馬県県土整備部】のサイトに掲載された地図を見る限り、トンネルは椎坂峠というか、むしろ数坂峠の芯を抜いているように見えるが、名前は椎坂バイパスになるらしい。